

# 「パーク」や「キャッスル」が付く ホテル名の日欧比較

—— 1960～70年代日本のホテル屋号 (5) ——

Comparison of Japanese and European Cases for Hotel Names included  
“Park” or “Castle”. *Japanese Hotel Names of the 60s and 70s: Part 5*

河村英和  
Ewa KAWAMURA

## 要 旨

1960～70（昭和30～50）年代は、日本各地で新築ホテルの開業ラッシュが起こり、数々のホテルが誕生したが、その屋号の命名にはある種の傾向があった。例えば「観光」「国際」「温泉」「グランド」「ニュー」「ロイヤル」等といった単語を、ホテルの所在地の地名に組み合わせてつくられ、その幾つかはヨーロッパのホテルの命名法を踏襲している。ホテルの立地から良い「眺望（ビュー）」を望めるときは、その自然環境のジャンル名を入れて、ホテルの屋号とするパターンもある。例えば、海であれば「海浜」「シー」「ビーチ」「シーサイド」、山であれば「高原」や「ハイランド」といった単語を含めて、ホテルの立地が屋号に反映される場合を、前稿で取り上げた。その続きとして本稿では、公園や城郭の眺めを楽しむことができるホテルがよく好んだ、「パーク」や「キャッスル」という単語を使って命名される事例に焦点を当て、日欧でのその命名法の違いを述べてゆく。

キーワード：ホテル、屋号、パーク（公園）、キャッスル（城）

前第34・35・36・37号と、本第38号をあわせた目次：

本稿（※）を始めるにあたり、今までの紀要の第34号（Part 1：第1章の「はじめに」なら

びに第2章の2-1から2-4まで)、第35号(Part 2:第2章の2-5と2-6)の「見出し」、第36号(Part 3:第2章の2-7の2-7-1から2-7-3まで)、第37号(Part 4:第2章の2-7-4と2-7-5)、本38号(Part 5:第2章の2-7-6と2-7-7)の見出しを統合し、「目次」としたものを、以下に示しておく。

## 1. はじめに

## 2. ホテル屋号の命名の変遷史：地名付きホテル名の日欧比較

### 2-1. 具象名で命名された宿屋

### 2-2. ホテル建築の概念の誕生と「王室(ロイヤル)」という屋号

### 2-3. 国名・町名の付いたホテル屋号

### 2-4. 「国際」を含むホテル名

### 2-5. 「グランド」を含むホテル名

### 2-6. 「ニュー」を含むホテル名

### 2-7. 良い眺望のある立地とホテル名

#### 2-7-1. 眺望の良さを示唆する「ビュー」を含むホテル名

#### 2-7-2. 湖の眺望を示唆する「レーク」を含むホテル名

#### 2-7-3. 河川の眺望を示唆する「リバー」を含むホテル名

#### 2-7-4. 海の眺望を示唆する「海浜」「シー」「ビーチ」等を含むホテル名

#### 2-7-5. 山の眺望を示唆する「高原」や「ハイランド」を含むホテル名

#### 2-7-6. 公園の近くや閑静な環境を示唆する「パーク」を含むホテル名

#### 2-7-7. 城のある立地を示唆する「キャッスル」を含むホテル名

### 2-7-6. 公園の近くや閑静な環境を示唆する「パーク」を含むホテル名

大都市であろうと田舎の小さな町にせよ、緑豊かな閑静な立地にホテルが建っているさいに、

---

(※) 本稿は、「ロイヤル」や「国際」が付くホテル名の日欧比較-1960~70年代日本のホテル屋号(1)(同紀要の第34号);「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較-1960~70年代日本のホテル屋号(2)(同紀要の第35号、2023年);「ビュー」や「レーク」が付くホテル名の日欧比較-1960~70年代日本のホテル屋号(3)(同紀要の第36号、2023年);「ビーチ」や「ハイランド」が付くホテル名の日欧比較-1960~70年代日本のホテル屋号(4)(同紀要の第37号、2024年)の計4稿の続きである。

それを想起させる屋号をホテル名にすることがある。そんな例の一つに、公園近くの立地で公園の眺めを望めることから、「パーク」を含ませる命名があり、これは今も昔も数多い。早い事例では18世紀半ば、フランス有数の大都市リヨン Lyon を代表するホテルのひとつが「Hôtel du Parc (公園ホテル)」だった。このホテルは、稀代の色事師カサノヴァ Giacomo Casanova の1750年の回想録の中で、自身の宿泊先として言及されている<sup>1</sup>。

フランスでは、公園を意味する単語「パルク Parc」を含むホテルが無数に開業した。とりわけベルエポック期には、山間や森に囲まれた地方では温泉リゾート開発が次々と進められ、長期滞在の湯治客がリラックスして過ごせるような公園が、ほぼ必ず温泉町には整備され、その横にはたいてい「公園ホテル (オテル・デュ・パルク Hôtel du Parc)」ができた。それは豪華で規模の大きいグランドホテル式の建築であることも少なくなく、そのような場合は Grand Hôtel du Parc と名付けられることもあった。

ミネラルウォーターで有名な町エヴィアン Evian やヴィッテル Vittel、近年ユネスコ世界遺産登録されたヴィシー Vichy には、「源泉公園 Parc des Sources」に面している「公園ホテル Hôtel du Parc」(現在は一般住宅)があった。プロンビエール＝レ＝バン Plombières-les-Bains では、「ティヴォリ公園 Parc Tivoli」の横に同じ名のホテル(現在は廃墟)ができた。加熱した温泉リゾート開発を揶揄したモーパッサン Guy de Maupassant の小説『モントリオル Mont Oriol』(1886年)に出てくる架空の温泉町のモデルとなったシャテル＝ギヨン Châtel-Guyon には、「グランド」が付いた Grand Hôtel du Parc ができた。これらのような極めて知名度の高い温泉町はもちろんのこと、ブルボンヌ＝レ＝バン Bourbonne-les-Bains、トノン＝レ＝バン Thonon-les-Bains、ル・モン＝ドール Le Mont-Dore、プーグ＝レ＝ゾ Pougueses-les-Eaux、ヴェルネ＝レ＝バン Vernet-les-Bains (1881年<sup>2</sup>) など枚挙に暇ない数のフランスの温泉町では、多くの場合、公園の近くに Parc という語を含む屋号のホテルができていた。小さな温泉町では、ウリアージュ＝レ＝バン Uriage-les-Bains、バン＝レ＝バン Bains-les-Bains、アレ＝レ＝バン Alet-les-Bains、アルヴァール＝レ＝バン Allevard-les-Bains、オリュ＝レ＝バン Aulus-les-Bains、ボーージュ Beaujeu、モントレジヨ Montréjeau、サントノ＝レ＝レバン Saint-Honoré-les-Bains、ジノール＝レ＝バン Ginoules-les-Bains (1845年<sup>3</sup>)、サリー＝ド＝ベアン Salies-de-Béarn (1892年<sup>4</sup>)、キャプヴァ

---

1 Casanova, Giacomo, *La mia vita, a cura di Giovanni Comisso*, vol. 3, Longanesi, Milano, 1958, p.1790; Casanova, Giacomo, *The Memoirs of Giacomo Casanova di Seingalt*, 7th vol., The Casanova Society, London, 1922, p. 278. 後年リヨンには、Grand Hotel du Parc et de Bordeaux という名のホテルもでき、その近くにあった公園は、のちの駅前開発で現存していない。

2 [https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/IA66003352?base=%5B%22Patrimoine%20architectural%20%28M%C3%A9rim%C3%A9%29%22%5D&listResPage=12&mainSearch=%22Hotel%20du%20Parc%22&resPage=12&last\\_view=%22list%22&idQuery=%22ca2efd7-1077-6e64-6a11-cc48ef551dc%22](https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/IA66003352?base=%5B%22Patrimoine%20architectural%20%28M%C3%A9rim%C3%A9%29%22%5D&listResPage=12&mainSearch=%22Hotel%20du%20Parc%22&resPage=12&last_view=%22list%22&idQuery=%22ca2efd7-1077-6e64-6a11-cc48ef551dc%22) (2024年4月4日閲覧)

ン＝レ＝バン Capvern-les-Bains、バルバザン Barbazan、テッセ＝ラ＝マドレーヌ Tessé-la-Madeleine (1927年<sup>5</sup>)にも Hôtel du Parc ができた。とにかく件数があまりに多く、ここで挙げたものはまだ氷山の一角に過ぎない。しかしながら二つの大戦の不景気を経て温泉開発ブームは去り、供給過剰なホテル群の需要が激減した。そのため、これら温泉町の多くのホテルは解体されて現存しないか、戦後に住宅に転用されるかで、今もホテルとして営業を続けているものは稀である。

温泉町以外で、Hôtel du Parc の存在したフランスの町には、ミュールーズ Mulhouse (1904年<sup>6</sup>) やロデーズ Rodez (1959年<sup>7</sup>) があり、山間の小さな町では、サン＝ネクテール Saint-Nectaire、ポール・レスネ Port-Lesney、フロラック・トロワ・リヴィエール Florac Trois Rivières (1903年<sup>8</sup>)、ラヴラネ Lavelanet、ヴァウル Vaour、ヴィラルール・ド・ラン Villard-de-Lans、モンジェロン Montgeron、メレヴィル Méréville がある。海浜町ではソール＝オスゴール Soorts-Hossegor (1900年<sup>9</sup>) や、とくにコート・ダジュールのようなバルエポック時代に発展した避寒リゾート地に多く、カンヌ Cannes (1893年<sup>10</sup>)、ニース Nice (1902年<sup>11</sup>)、マントン Menton、イエール Hyères にも「パルク Parc」を含む高級ホテルができたが、温泉町のときと同様に、その

---

3 <https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/IA11900894?base=%5B%22>

Patrimoine%20architectural%20%28M%C3%A9rim%C3%A9e%29%22%5D&mainSearch=%22Hotel%20du%20Parc%22&last\_view=%22list%22&idQuery=%22e66055-3575-72a7-3e3-fd4f2e7ce%22 (2024年4月4日閲覧)

4 1995年に文化財 monument historique に登録され、現在も営業が続いている。<https://monumentum.fr/monument-historique/pa00135199/salies-de-bearn-grand-hotel-du-parc> (2024年3月31日閲覧)

5 <https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/IA61000134?base=%5B%22> Patrimoine%20architectural%20%28M%C3%A9rim%C3%A9e%29%22%5D&listResPage=8&mainSearch=%22Hotel%20du%20Parc%22&resPage=8&last\_view=%22list%22&idQuery=%22c6f10a-ada2-5e65-0d14-846287dc7c1d%22 (2024年4月4日閲覧)

6 現在もミュールーズでは、シュタインバッハ公園 Parc Steinbach に面している Hôtel du Parc の営業が続いている。<https://www.hotelduparc-mulhouse.com/en/> (2024年3月31日閲覧)

7 <https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/IA12112887?base=%5B%22> Patrimoine%20architectural%20%28M%C3%A9rim%C3%A9e%29%22%5D&listResPage=13&mainSearch=%22Hotel%20du%20Parc%22&resPage=13&last\_view=%22list%22&idQuery=%22015b45-ba11-dalf-eacc-33bb5087fa%22 (2024年4月4日閲覧)

8 現在もフロラック・トロワ・リヴィエールでは、Grand Hôtel du Parc の営業が続いている。<https://www.grandhotelduparc.fr/> (2024年3月31日閲覧)

9 <https://www.sudouest.fr/landes/hossegor/landes-la-premiere-pierre-d-un-hotel-trois-etoiles-a-hossegor-2597806.php> (2024年4月4日閲覧)

10 ヴァロンブローザ公園 Parc Vallombrosa にあり、もともと英国人の邸宅であった「ヴァロンブローザ城 Château Vallombrosa」を Hôtel du Parc に転用していたが、第2次大戦中に閉業し、現在は一般住宅となっている。<https://www.pop.culture.gouv.fr/notice/merimee/PA00125702> (2024年5月9日閲覧)

11 Hotel du Parc Impérial という名称で、現在は Le Parc Impérial という名の高等学校として使用されている。<https://www.leparcimperial.fr/cite-mixte-du-parc-imperial/> (2024年4月3日閲覧)

ほとんどが第2次世界大戦前後にホテルとしての使命を終えて、今は高級住宅か学校などの別の用途で使用されている。

ヨーロッパの温泉町では、長逗留中に散歩を楽しむために欠かせない公園が付き物であるがゆえ、「公園」を屋号に使ったホテルができる現象は、ドイツ語圏でも顕著だった。フランス同様にドイツ語圏の温泉町にも散歩に適した大きな公園がよくあるため、ベルエポック期に、公園を意味するドイツ語「*Park*」を付して「*Parkhotel*」と呼ばれるホテルが数多く生まれた。たとえば、オーストリアの温泉町ではフィラッハ Villach (1911年<sup>12</sup>)、ドイツではシュランゲンバート Schlangenbad、バート・デュルハイム Bad Dürreheim、バート・ベルクツァーバン Bad Bergzabern、バート・ヴェリスホーフエン Bad Wörishofen、バート・シュテーベン Bad Steben (1892年<sup>13</sup>) に、それぞれ *Parkhotel* ができた。ヨーロッパを代表する温泉町としてユネスコ世界遺産となったバーデン・バーデン Baden Baden の公園に面している「ブレンナー・パークホテル Brenners Park Hotel」は、今も現役でドイツ随一の最高級ホテルでもあるが、所有者の名ブレンナー Anton Alois Brenner と「公園」という単語を組み合わせた現在のホテル名になったのは、戦後1949年からで、それまでの屋号は *Hotel Stephanie* だった<sup>14</sup>。

戦前に創業し今も営業が続いている *Parkhotel* と称するホテルは、ドイツではブレーメン Bremen (1872年<sup>15</sup>)、マンハイム Mannheim (1901年<sup>16</sup>)、デュッセルドルフ Düsseldorf (1902年<sup>17</sup>) にある。オランダのアムステルダム Amsterdam では、フォンデル公園 Vondelpark の近くに、オランダ語で「*Parkzicht* (公園の眺め)」と称するホテルが1880年に開業し、現在もホテル「*Park Centraal*」という名で営業している<sup>18</sup>。

ときには公園に面しているとは限らず、比較的閑静な場所であることや、上品さや高級感を表現するためにホテル名にパークを入れることもあった。町なかにある人工的に整備された大小様々な公園だけでなく、自然豊かな郊外や山岳部や海浜町においても、果ては「国定公園」に相当する広大な自然景勝のある立地においても、ホテル名にパークを含ませることは珍しくない。例えばスイスの山岳スキーリゾート地のヴィラルール Villars にも *Hôtel du Parc* があり、ポントレジー

---

12 ホテルは閉業し、現在は会議場として使用されている。

13 Winckler, Axel, *Führer durch das königl. bayer. Stahl- und Moor-Bad Steben*, Friedrich Thelemann, Hof, 1895, p. 9.

14 <https://www.oetkercollection.com/de/hotels/brenners-park-hotel-spa/das-hotel/die-geschichte/> (2024年4月5日閲覧)

15 現在の建物は、1956年に再建したものである。<https://www.hommage-hotels.com/parkhotel-bremen/unser-hotel> (2024年4月4日閲覧)

16 <https://parkhotel-1901.de/index.html> (2024年4月3日閲覧)

17 宮廷公園 Hofgarten に隣接している。*Düsseldorf und seine Bauten*, Architekten- und Ingenieur-Verein, Düsseldorf, Selbstverlag des Vereins, 1904, p. 308; <https://hrewards.com/de/steigenberger-icon-parkhotel-duesseldorf> (2024年4月4日閲覧)

18 <https://www.parkcentraal.com/amsterdam/history/> (2024年4月4日閲覧)

ナ Pontresina、アイントラハト Eintracht（ヴォルフエンシーセン Wolfenschiessen）のような、スイスの山間の小さな村にもパークホテルという名のホテルができた。

また、ドイツやスイスでは湖畔や河畔に面している風光明媚なホテルの屋号にも、パークが用いられることがある。例えばライン川に面したリュースハイム Rudesheim にもパークホテルができたし、19世紀後半のスイスのイタリア語圏ティチーノ州の湖畔の町ルガーノ Lugano で最も評判の良い高級ホテルは、16世紀の修道院を改築した湖畔に面する Hôtel du Parc（1855年）であった<sup>19</sup>。スイスのフランス語圏では他にも湖畔の立地で、レマン湖畔ローザンヌ Lausanne のウシー Ouchy 地区に Hôtel du Parc があり、レマン湖畔の高台の上にあるグリオン Glion にも Parkhotel があった。ドイツ語圏のトゥーン湖畔のグンテン Gunten や、ルツェルン湖畔の町ブルンネン Brunnen にも Parkhotel（現在は住宅）があり、フィッツナウ Vitznau（1903年<sup>20</sup>）のパークホテルは、当時も今もスイスを代表する最高級ホテルの一つである。またルツェルン湖畔の高台の上にあるビュルゲンシュトック Bürgenstock にも、かつて Parkhotel（1888年<sup>21</sup>）があった。

戦前のイタリアでは、高級感を出すためにフランス語名で命名されたホテル「Hotel du Parc」がミラノ Milano とモンツァ Monza にあり、ローマ Roma のボルゲーゼ公園 Villa Borghese の近くには英語（あるいはドイツ語）名の「Fischer's Park Hotel」というホテルがあった。なお、イタリア語の公園「パルコ Parco」または定冠詞付きでの命名で「イル・パルコ Il Parco」と称するホテルは、リミニ Rimini、サンレモ San Remo、カプリ Capri、ペスカッセロリ Pescasseroli にできた。「公爵家の敷地」の意味合いのある「パルコ・デイ・プリンチピ Parco dei Principi」という屋号は戦後に増え、ソレント Sorrento（1962年）、ローマ（1964年）、フォッジャ Foggia、スカレーア Scalea といった振興の大衆向け海浜リゾート地に開業され、スペインではバルセロナ Barcelona に、戦後のモダニズム建築の Hotel Park（1954年<sup>22</sup>）ができた。戦後は水の都ヴェネツィア Venezia にも、英語名のホテル Park Hotel（1956年、現・Hotel Papadopoli）が、パパドーポリ公園 Giardino Papadopoli に面した場所に建った。

イギリスでも「公園 Park」を屋号としたホテルが数多い。「ヒストリック・イングランド Historic England（イングランド歴史的建造物・モニュメント委員会）」が運営するウェブサイト内で、文

---

19 Pasqualino, Giuseppe, *Manuale ad uso del forastiere in Lugano, ovvero, Guida storico-artistica della città e dei contorni*, Giuseppe Fioratti, Lugano, 1855, p. 48; p. 82; p. 184; Béha, Alexander, *Lugano and Its Environs: Special Guide*, Alexander Béha, Lugano, 1866, p. 40.

20 <https://www.parkhotel-vitznau.ch/hotel/geschichte>（2024年4月4日閲覧）

21 ビュルゲンシュトックのパークホテルの建物は解体され、2014年に新規開業した大規模なホテル「Bürgenstock Resort」のレセプションとメインエントランスのある新築に置き換わり、Parkhotelの屋号は残っていない。<https://burgenstockresort.com/de/ueber-un>（2024年4月4日閲覧）

22 <https://www.arquitecturacatalana.cat/es/obras/hotel-park>（2024年4月4日閲覧）

化財登録されている建物 (Listed Building) で「Park Hotel」という単語で検索をかけると、現時点では 437 件が出てくる<sup>23</sup>。公園の近くの立地でホテル名に Park と付く、ロンドン London の主要な事例だけを挙げれば、ハイドパーク Hyde Park に接した「ハイドパークホテル Hyde Park Hotel」(1902 年<sup>24</sup>、現・Mandarin Oriental Hyde Park)、グリーンパーク Green Park に面した「Park Lane Hotel」(1927 年、現・Sheraton Grand London Park Lane) がある。

アメリカでは、「パークサイドホテル Parkside Hotel」と命名されたホテルも散見される。ニューヨーク New York、ワシントン Washington, D.C.、イリノイ州のケワニー Kewanee、ミネソタ州のロチェスター Rochester に、この名前のホテルが確認できた。パークホテルという屋号は、ウィスコンシン州マディソン Madison (1871 年<sup>25</sup>) や、ニューヨークでは、セントラルパーク Central Park の西側に位置する 50W 77th St に、「ホテル・パーク・プラザ Hotel Park Plaza」があったが現在は住宅である。なおセントラルパークの南側には、現役の「パーク・セントラル・ホテル Park Central Hotel」(1927 年<sup>26</sup>) と「Hotel Park Chambers」(現在は住宅) もある。1860 年にニューヨークの楽譜出版社から刊行された「ギャロップ (馬の疾走を表現するダンス音楽集)」のなかに「Hyde Park Hotel」(A. J. Vaas 作曲) と題する曲が収録されているので<sup>27</sup>、おそらく同ホテルのダンスホールで踊るために作曲されたのだろう。アメリカで Hyde Park Hotel という名のホテルは、少なくともシカゴ Chicago (1888 年<sup>28</sup>) やマイアミビーチ Miami Beach (1940 年代) に存在した。

日本ではアメリカの影響で、「パークサイドホテル」という名のホテルが、長崎 (1974 年<sup>29</sup>)、名古屋 (1979 年<sup>30</sup>)、広島 (1983 年<sup>31</sup>) で開業しているが、よりシンプルな名称である「パークホテル」のほうが広く普及した。とくに高度経済成長期 1960~70 年代に建設されたホテルでパークホテルという名が流行したが、これは 1980 年代のバブル期にも引き継がれた。早い例では戦前で、鉄道省が発行したガイドブック『観光地と洋式ホテル』(1934 年) に、軽井沢と松島にある

---

23 <https://historicengland.org.uk/listing/the-list/results/?search=Park+Hotel&searchType=NHLE+Simple> (2024 年 4 月 4 日閲覧)

24 <https://photos.mandarinoriental.com/is/content/MandarinOriental/corporate-london-PK-hotel-history> (2024 年 4 月 4 日閲覧)

25 *The Park Hotel Traveler's Guide for 1872. Containing a Brief History of the City of Madison*, Atwood & Culver, Madison, 1872, p. 2.

26 1940-70 年代はシェラトンホテルの傘下になっていた。 <https://www.digitalcommonwealth.org/search/commonwealth:6d570v515> (2024 年 4 月 3 日閲覧)

27 Vaas, A. J., *Hyde Park Hotel: Gallop, in Peters' Select Series of Galops and Trois Temps*, J. L. Peters, New York, 1860

28 1962 年に解体された。Susan O' Connor Davis, *Chicago's Historic Hyde Park*, The University of Chicago Press, Chicago, 2013, p. 72.

29 『日本ホテル年鑑 1985 年版 (西日本編)』オータパブリケーションズ、1985 年、p. 1568.

30 上掲書、p. 1099.

31 上掲書、p. 1397.

「パークホテル」が紹介されている<sup>32</sup>。軽井沢の「パークホテル」の立地は、軽井沢ゴルフ場の近くであり<sup>33</sup>、広範囲に芝生が広がるゴルフ場が公園の代替的な意味合いで命名されたのだろう。なお、軽井沢のパークホテルは戦後に「軽井沢東急ホテル」になったが1971年に閉業した<sup>34</sup>。宮城県の「松島パークホテル」は、公園制度の適用によって、1900年に県立松島公園が<sup>35</sup>でき、その計画の一環として県営でつくられたホテル（1913年開業）である。松島海岸沿いにあり、その景勝がよく望める立地に建った<sup>35</sup>。設計は、のちに広島原爆ドーム（広島県物産陳列館）を設計することとなるチェコ人建築家ヤン・レツル Jan Letzel（1880-1925）によるもので<sup>36</sup>、和の伝統的な意匠を基調としているが中央に塔屋が携えられ、西洋建築のように左右対称にデザインされている。1939年には、その隣の敷地には、吉田五十八（1894-1974）と高橋貞太郎（1892-1970）の設計による和風モダニズム建築の「松島ニューパークホテル」も建設されたが、酒場の炭火の出火から1940年に全焼してしまった<sup>37</sup>。

日本各地にできた「パーク」を含む名を持つホテルを開業年順に列挙すると、以下の通りとなる。ただし釧路のものは、珍しく英語のパークではなくイタリア語のパルコが、そのホテル名に使われた。

芝パークホテル（1949年<sup>38</sup>）（図1）、妙高パークホテル（1952年<sup>39</sup>）、浄土ヶ浜パークホテル（1957年<sup>40</sup>）、網走湖畔のホテルビューパーク（1962年<sup>41</sup>）、大洗パークホテル（1962年<sup>42</sup>）、鬼怒川パークホテル（1962年<sup>43</sup>）、札幌パークホテル（1964年<sup>44</sup>）、蓼科パークホテル（1966年<sup>45</sup>）、塩

32 『観光地と洋式ホテル』 鐵道省、1934年、p. 23; p. 26.

33 上掲書、p. 23.

34 富田昭次『ホテルの社会史』 青弓社、2006年、p. 57; 『会社年鑑 1976年版』 日本経済新聞社、1976年、p. 2486.

35 小川功「日本三景・松島の観光振興と旅館経営者—大宮司雅之輔による観光鉄道への関与を中心として」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』 第9号、2010年、p. 3.

36 砂本文彦『近代日本の国際リゾート：一九三〇年代の国際観光ホテルを中心に』 青弓社、2008年、pp. 346-347.

37 『吉田五十八建築作品集 第1（一般篇上）』 目黒書店、1949年、pp. 59-74; 砂本文彦、前掲書、2008年、pp. 357-368.

38 株式会社芝パークホテル「株式会社芝パークホテルについて」<https://hikoma.jp/shibaparkhotel/companies/5492>（2023年4月3日閲覧）

39 1977年の文芸春秋に「25回目の冬を迎える妙高パークホテル」という記述があることから、創業年を推定した。

40 浄土ヶ浜パークホテル「浄土ヶ浜パークホテルについて」、<https://www.jodo-ph.jp/about/>（2023年4月4日閲覧）

41 前身は、「網走温泉ホテル」である。『北海道年鑑 1973年版』 北海道新聞社、1972年、p. 725.

42 朝日新聞社編『日本の宿—Where to lay your head in Japan』 朝日新聞社、1977年、p. 148; 堀田英二建築設計事務所「大洗パークホテル」『建築文化』 1961年10月号、pp. 95-100; 「新入会ホテル紹介：大洗パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』 1986年5月号、p. 20.

43 リクナビ2024「株式会社鬼怒川パークホテル」、<https://job.rikunabi.com/2024/company/r150862065/>（2023年4月4日閲覧）



図1 芝公園近くに立地する「芝パークホテル」開業当時の絵葉書、1950年頃



原パークホテル（1967年以前<sup>46</sup>）、奈良パークホテル（1967年<sup>47</sup>、または1969年<sup>48</sup>）、雲仙パークホテル（1968年以前<sup>49</sup>）、須磨パークホテル（1968年以前<sup>50</sup>）、尾瀬パークホテル（1968年<sup>51</sup>）、千葉ニューパークホテル（1970年<sup>52</sup>）、青島パークホテル（1970年<sup>53</sup>）、洞爺パークホテル（1970年<sup>54</sup>）、新潟パークホテル（1970年<sup>55</sup>、1976年<sup>56</sup>、1981年<sup>57</sup>）、京都パークホテル（1971年；新築

44 著名な建築家、坂倉準三（1901-1969）による設計で、開業当時は「ホテル三愛」という名前であった。「記録6: ホテル三愛」『SD: Space Design』1965年1月号、p. 126.

45 やど日本（日本旅館協会）「蓼科中央高原 蓼科パークホテル」、<https://www.ryokan.or.jp/inn/37710>（2023年4月4日閲覧）。現在は「蓼科随一の展望 いろりの宿 蓼科パークホテル」という屋号となり、創業当時の建物は東館として使用している。蓼科随一の展望 いろりの宿 蓼科パークホテル「施設」、<https://tateshina-parkhotel.com/facilities.html>（2023年4月4日閲覧）

46 当時の「塩原パークホテル」パンフレットに「(昭和) 42.9.20 増築完成」と記載されている。

47 「呉竹荘、奈良に進出、地元ホテルを買収」『日本経済新聞』静岡版、2019年4月12日、p. 6.

48 朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 223.

49 「近代建築で急速に成長した“雲仙”の雲仙パークホテル」『月刊ホテル旅館』1968年5月号、pp. 90-94; 2014年に解体された。株式会社新栄建設「とりこわし」[https://sinei-kensetu.jp/?page\\_id=475](https://sinei-kensetu.jp/?page_id=475)（2024年3月28日閲覧）

50 現存せず。内閣官報局編『法令全書1』原書房、1968年、p. 193.

51 2023年1月に閉業した。「『鳩待峠に一番近い宿』尾瀬パークホテル（群馬・片品村）に破産手続き開始決定」『上毛新聞』2023年3月23日配信、<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/258333>（2023年4月3日閲覧）

52 奥村組「千葉ニューパークホテル」<https://www.okumuragumi.co.jp/works/jisekisyu/indexc6.html>（2023年4月3日閲覧）。「千葉ニューパークホテル」は「みなと公園」に面する立地にあったが、1991年に幕張に移転するにあたって解体、ホテル「ザ・マンハッタン」と改名され現在に至っている。「ネスコ、ホテル跡地売却、大手ゼネコンに約160億円で一負債を大幅圧縮。」『日本経済新聞』千葉版、1993年6月1日、p. 39.

53 朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 260.

1980年<sup>58)</sup>、徳島パークホテル(1972年<sup>59)</sup>、戸倉パークホテル(1972年<sup>60)</sup>、八戸パークホテル(1972年<sup>61)</sup>、福山パークホテル(1972年<sup>62)</sup>、松山パークホテル(1973年<sup>63)</sup>、富山パークホテル(1973年<sup>64)</sup>、釧路パルコホテル(1973年<sup>65)</sup>、東山パークホテル(1973年以前<sup>66)</sup>、登別パークホテル(1974年<sup>67)</sup>、新宿パークホテル(1974年<sup>68)</sup>、鎌倉パークホテル(1975年<sup>69)</sup>、アキタパークホテル(1972年<sup>70)</sup>、アキタパークホテル新館(1976年<sup>71)</sup>、定山溪パークホテル(1976年<sup>72)</sup>、北海道の千代田パークホテル(1976年<sup>73)</sup>、岩手県の北上パークホテル(1977年<sup>74)</sup>、佐渡パークホ

- 
- 54 Karakami HOTELS&RESORTS「企業情報：沿革」、<https://www.karakami-kankou.co.jp/corporate/history/>(2023年4月3日閲覧)；「洞爺パークホテル〈洞爺湖温泉〉」『月刊ホテル旅館』1970年9月号、pp. 41-43.
- 55 「新潟駅周辺地区、ビジネスホテル2社、増設へー来年中に195室を計画。」『日本経済新聞』新潟版、1985年11月23日、p. 22.
- 56 1986年に改築。るぶトラベル「新潟パークホテル(Niigata Park Hotel)」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/niigata/niigata-park-hotel?cid=1839182>(2024年3月29日閲覧)
- 57 ビジネスホテルである。『日本ホテル年鑑1985年版〈東日本編〉』オータパブリケーションズ、1985年、p. 774.
- 58 創業時の建物は解体され、1980年に新築されたが、2005年に廃業し、2006年から現在は外資系ホテルの「ハイアット・リージェンシー京都」になっている。「丸玉観光の京都パークホテル本館が完成、8日から営業開始。」『日経産業新聞』1980年7月8日、p. 11；「京都パークホテル、モルガンに売却、来年1月で休止。」『日本経済新聞』京都・滋賀版、2004年12月14日、p. 45；「ハイアットリージェンシー京都、来年3月3日に開業。」『日本経済新聞』京都・滋賀版、2005年2月2日、p. 45.
- 59 「徳島パークホテル」『月刊ホテル旅館』1972年10月号、p. 14；pp. 28-31.
- 60 「戸倉パークホテル〈上山田〉」『月刊ホテル旅館』1972年10月号、pp. 24-27.
- 61 八戸パークホテル公式サイト、<https://hachinohe-park.com/>(2023年4月3日閲覧)
- 62 「福山パークホテル〈福山〉」『月刊ホテル旅館』1972年9月号、pp. 38-40.
- 63 早川哲「松山パークホテル」『月刊ホテル旅館』1973年6月号、pp. 29-32.
- 64 出水建築事務所「富山パークホテル」『近代建築』1973年11月号、pp. 109-112.
- 65 ビジネスホテルで、名称に英語のパークではなくイタリア語のパルコを使っている。『日本ホテル年鑑1978年版』オータパブリケーションズ、1978年、p. 88.
- 66 1990年に1棟新築したが、2005年に倒産し、現在は伊東園ホテルズの傘下となっている。「会津若松の東山温泉、ホテルの増改築ラッシュ、高速道開通などで集客増期待。」『日経産業新聞』、1991年11月15日、p. 19；「東山パークホテル、破産手続き開始。」『日本経済新聞』東北版、2005年8月24日、p. 24.
- 67 ANA「名湯の宿 パークホテル雅亭」、<https://www.ana.co.jp/domtour/booking/csm/search/DSEP0080/init?coptCd=10340&facCd=01&extAccFlg=1>(2024年3月29日閲覧)
- 68 2014年に閉業した。「新宿パークホテル」『月刊ホテル旅館』1975年1月号、pp. 38-41；東京23区&周辺のホテル&旅館「旧・新宿パークホテル」、[https://tokyo.mport.info/inn/tokyo/tokyo23/shibuya/shinjuku\\_park\\_hotelna.html](https://tokyo.mport.info/inn/tokyo/tokyo23/shibuya/shinjuku_park_hotelna.html)(2023年4月3日閲覧)
- 69 「新入会ホテル紹介：鎌倉パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』1978年4月号、p. 15.
- 70 『日本ホテル年鑑1985年版〈東日本編〉』、p. 294.
- 71 「アキタパークホテル新館」『月刊ホテル旅館』1976年9月号、p. 11；pp. 29-31.
- 72 1963年創業の木造旅館「白雲閣」に遡るが焼失したため、1976年に「定山溪パークホテル」と改名して新築したが、2001年の大々的な改修以降、「ぬくもりの宿ふる川」という屋号で今に至っている。田中正「旅館再生の可能性—改修により、規模・施設イメージを一新し、名称・サービスも変えて再生した成功事例から」『宮城大学事業構想学部紀要7』2004年、p. 3；「定山溪パークホテル」『月刊ホテル旅館』1976年12月号、p. 14；pp. 28-32.

## 「パーク」や「キャッスル」が付くホテル名の日欧比較

テル（1977年以前<sup>75</sup>）、函館パークホテル（1977年<sup>76</sup>）、北上パークホテル（1977年<sup>77</sup>）、気仙沼パークホテル（1978年<sup>78</sup>）、大阪市西区の「パークホテル」（1979年<sup>79</sup>）、新宿サンパークホテル（1979年<sup>80</sup>）、岡山パークホテル（1979年<sup>81</sup>）、二戸パークホテル（1979年<sup>82</sup>）、十和田（湖）パークホテル（1970年代<sup>83</sup>）、三沢パークホテル（1979年<sup>84</sup>）、静岡パークホテル（1980年<sup>85</sup>）、高知パークホテル（1980年<sup>86</sup>）、胎内パークホテル（1980年<sup>87</sup>）、鹿角パークホテル（1980年<sup>88</sup>）、上野公園近くのホテルパークサイド（1981年<sup>89</sup>）、長岡パークホテル（1982年<sup>90</sup>）、旭川パークホテル

73 現存せず。廃墟探検地図「千代田パークホテル」<https://haikyo.info/s/2321.html>（2024年3月31日閲覧）

74 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 325.

75 前身は、1932年創業のホテル「富山館」。朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 172.

76 前身は大分県出身者による1950年創業のホテル「大分軒」であったが、1977年に「函館パークホテル」と改名し、1989年に大幅に改築された。「函館市内中心部新川町の函館パークホテル、新都市型和風ホテルに新装オープン」『はこだて財界』1989年1月号（新春特別）、pp. 20-23.

77 北上市企業データベース「株式会社北上パークホテル」<https://kitakamidb.org/detail.php?kkidp=31172&buk=0>（2023年4月5日閲覧）

78 ビジネスホテルである。『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 354.

79 『日本ホテル年鑑 1985年版〈西日本編〉』、p. 1255.

80 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 620.

81 編集部「全国奮戦ホテル旅館ルポ—岡山パークホテル（岡山市）」『月刊ホテル旅館』1979年6月、p. 190; 「穴吹興産—地元密着でシェア向上（ウオッチング四国の企業）」『日本経済新聞』四国版、1996年6月25日、p. 12.

82 「二戸市内に初のホテルと大型SC—ホテルは二戸パークホテル、中三がSCの核店舗。」『日本経済新聞』東北版、1979年6月8日、p. 2; 平山恵一「人口約三万人ながら県北の行政中心都市で、将来性に期待—二戸パークホテル（岩手県・二戸市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 28-32; 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 305.

83 『山口誓子全集 第10巻（紀行集・年譜）』明治書院、1977年、p. 22.

84 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 272; 平山恵一「基地関連の需要も多く、宿泊は安定：課題は宴会部門拡充—三沢パークホテル（青森県・三沢市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 33-36. 2016年に閉業し、現在は更地となっている。旅行と宿のクリップ「三沢パークホテル」、<https://www.clipit.jp/aomori/30257/>（2023年4月4日閲覧）

85 『日本ホテル年鑑 1985年版〈西日本編〉』、p. 1040.

86 平山恵一「品質アップを目指した都市型ホテルのリノベーション研究事例—高知パークホテル（高知市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 195-198.

87 パークホテルと称するも「国民宿舎」として誕生した。現在は「胎内アウレツ館」と改名して営業している。1987年にはその隣に黒川村の村営「ニュー胎内パークホテル」も開業し、内部は連絡通路で繋がった。「新潟・黒川村—災害原点に観光開発次々（地域おこし実践講座）」『日経流通新聞』1990年10月11日、p. 13; さらに2001年にはその横に、仏シャトー風の意匠の「胎内ロイヤルパークホテル」も建設された。鹿島の実績紹介「ロイヤル胎内パークホテル」、<https://www.kajima.co.jp/project/works/detail/royal-tainai-hotel.html>（2023年4月4日閲覧）

88 コロナ禍の影響によって2020年に閉業した。東京商工リサーチ「秋田ホテル経営：株）鹿角パークホテル」2020年5月7日配信、[https://www.tsr-net.co.jp/news/tsr/20200507\\_04.html](https://www.tsr-net.co.jp/news/tsr/20200507_04.html)（2023年4月5日閲覧）

89 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 722. コロナ禍の影響もあり、2022年に閉業した。東京23区&周辺のホテル&旅館「旧・ホテルパークサイド」、[https://tokyo.mport.info/inn/tokyo/tokyo23/taitou/\\_hotel\\_parkside.html](https://tokyo.mport.info/inn/tokyo/tokyo23/taitou/_hotel_parkside.html)（2024年4月2日閲覧）

(1983年<sup>91</sup>)、名古屋不二パークホテル(1983年<sup>92</sup>)、厚木ロイヤルパークホテル(1986年<sup>93</sup>)、砂川パークホテル(1986年<sup>94</sup>)、ロイヤルパークホテル高松(1989年<sup>95</sup>)、東京・日本橋箱崎町のロイヤルパークホテル(1989年<sup>96</sup>)という具合で、「パーク」と名うったホテル名の流行は、1970年代にピークを迎えていたことがわかる。さらにバブル期には高級志向をアピールするために、「ロイヤル」という語も足した命名である「ロイヤルパーク」という屋号も増え<sup>97</sup>、1994年より三菱地所グループが「ロイヤルパーク」というホテルチェーンを展開するため、「ロイヤルパークホテルズ」を設立したが<sup>98</sup>、その時分には、公園に近い立地を示唆する「パークホテル」という名が派生した当初の意味合いはもはや薄れてしまったようだ。

### 2-7-7. 城のある立地を示唆する「キャッスル」を含むホテル名

日本でよくあるホテル名のなかで、欧米のホテルの場合で普及したときとの動機が全く異なっているのは、「キャッスル」を含む屋号である。日本で「キャッスルホテル」と称する場合、高級であればたいはいは、城郭がよく見える良い眺望の立地にある。中堅ビジネスホテルで「キャッ

90 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 787.

91 「高野観光、ホテル撤退—旭川パークホテルを売却。」『日本経済新聞』北海道版、1987年7月29日、p. 1.

92 「名古屋の都心・栄にオアシス誕生—名古屋不二パークホテル 9月10日オープン」『中部財界』1983年10月号、pp. 37-39; 「新入会ホテル紹介：名古屋不二パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』1986年5月号、p. 22. 現在この建物は「アパホテル〈名古屋錦〉EXCELLENT」として営業している。

93 2006年には「ソラーレホテルアンドリゾート」の新ホテルブランド「ロワジール」に組み込まれ、「ロワジールホテル厚木」と改名された。現在は、「レンブラントホテルズアンドリゾート」の傘下となり、「レンブラントホテル厚木」として営業している。「三菱地所、厚木のホテルの開業準備室開設。」『日経産業新聞』1985年9月12日、p. 14; 「三菱地所、厚木のホテル10月に開業。」『日経産業新聞』1986年4月14日、p. 15; 編集部「三菱地所『厚木ロイヤルパークホテル登場』で一気にパワーアップ—神奈川・厚木」『月刊ホテル旅館』1986年6月号、pp. 88-89; 「厚木ロイヤルパーク、『ロワジール』にホテル名変更。」『日本経済新聞』神奈川版、2006年11月18日、p. 26.

94 砂川パークホテルのテレフォンカードに「(昭和) 61・9・3オープン」と記載されている。砂川パークホテル『砂川パークホテル』リニューアル計画 地域説明会のご案内)2024年3月22日配信 <https://www.sunapark.co.jp/archives/777> (2024年3月28日閲覧)。

95 「『ロイヤルパークホテル高松』、2月22日にオープン。」『日本経済新聞』四国版、1989年2月23日、p. 12.

96 「ロイヤルパークホテル、来月1日に開業。」『日経産業新聞』1989年5月25日、p. 6; 「事務所特集 大旗連合建築設計：作品 ロイヤルパークホテル / 三菱地所」『近代建築』1989年10月号、pp. 51-62.

97 「ロイヤル」を含む屋号については拙稿：河村英和「『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(1)」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年、pp. 146-157.

98 2000年には、「株式会社ロイヤルパークホテルズアンドリゾート」が設立された。ROYAL PARK HOTELS(三菱地所グループ)「ロイヤルパークホテルズについて：沿革」、<https://www.royalparkhotels.co.jp/about/> (2024年4月4日閲覧)

## 「パーク」や「キャッスル」が付くホテル名の日欧比較

スル」という名がつく場合は、ホテルの立地が城下町にあることにあやかっただけであり、いずれにしても建物そのものの形状が城のようであるからではない。もし日本のホテルで、「城のような」建物デザインであるがために、「キャッスルホテル」と命名されている場合は、和洋どちらでもありえるキッチュなラブホテルであることが多い。しかし欧米では、ベルエポック期に流行した中世の城のようなネオ・ゴシック様式建築の建物を高級ホテルにして、「キャッスル（英：Castle）」や「シャトー（仏：Château）」や「シュロス（独：Schloss）」といった単語をホテル名に取り入れることが多々ある。もちろん本物の歴史的建造物である城館をホテルに用途転用したときにも、こういったホテル名はよく使われる。ヨーロッパの場合、城の近くという立地であるからという理由で、「城」という単語を含めてホテル名とする例は、日本と比べて格段に少ないが、イギリスでは散見される。

例えば、伝説のブリテン王アーサー King Arthur の生まれ故郷として知られるコーンウォール地方のティンタジェル Tintagel に、王所縁のティンタジェル城 Tintagel Castle の遺構があり、当地を代表するホテルは、「アーサー王の城ホテル King Arthur's Castle Hotel（現・Camelot Castle Hotel）」（1899 年<sup>99</sup>）という名であり、城の近くの立地から由来するだけでなく、中世の城を模した建築様式も採用されている。また、ウェールズのコンウィ Conwy には、エドワード 1 世 Edward I（1239-1307）が築城したコンウィ城 Conwy Castle が残っていることから、当地を代表するホテルもこの観光資源に因み、「キャッスル・ホテル Castle Hotel」（1885 年<sup>100</sup>）と称されるが、その姿は、街道に面したネオルネサンス様式の小規模なコーチング・イン coaching inn（宿駅）である。他にも城の近くに建っているがゆえに Castle Hotel と称するイギリスのホテルは、グレンドヴォン Glendevon、デガンウィ Deganwy（1882 年<sup>101</sup>）、キンドラミー Kildrummy にあった。一方、セント・アイヴス St. Ives の「トレゴナ・キャッスル・ホテル Tregonna Castel Hotel」は、有力者の 18 世紀の屋敷を、19 世紀後半に鉄道会社がホテルに転用したものである<sup>102</sup>。ビートック Beattock にある「オーケン・キャッスル・ホテル Auchen Castle Hotel」も、前身は 19 世紀の邸宅だが、その名称は近くにある遺構となった同名の 13 世紀の城に由来している。一方リントン Lynton に建った「ロイヤル・キャッスル・ホテル Royal Castle Hotel」（1810 年頃）は、建物の豪華さから Castle という語を入れ、建設最初からホテルだった<sup>103</sup>。もともと城のようなデザインの 19 世紀の豪邸が、後年にホテルに転用された例では、スコットランドの「テイマ

---

99 <https://www.camelotcastle.com/hotel/hotels-in-cornwall>（2023 年 4 月 4 日閲覧）

100 Swales, Will, *Conwy Castle Hotel. A Brief History*, The Coaching Inn Group Ltd., Boston, 2017, p. 18.

101 <https://historypoints.org/index.php?page=former-deganwy-castle-hotel>（2024 年 4 月 4 日閲覧）

102 <https://tregenna-castle.co.uk/the-resort/history/>（2024 年 4 月 4 日閲覧）

103 <https://historicengland.org.uk/listing/the-list/list-entry/1206504?section=official-list-entry>（2024 年 4 月 4 日閲覧）

ス・キャッスル・ホテル Taymouth Castle Hotel」(1920年<sup>104</sup>)や、「バリキンレイン・キャッスル・ホテル Ballikinrain Castle Hotel」がある。なお、政府機関「ヒストリック・イングランド」のウェブサイトでは文化財に登録されている建物 (Listed Building) を、「Castle Hotel」で検索をかけると、現時点では332件に上る<sup>105</sup>。

ドイツでは、中世の古城で有名な大学町ハイデルベルク Heidelberg に、城に近い高台の立地に因んで「城ホテル」と命名された「シュロスホテル Schlosshotel」(1873年)があった<sup>106</sup>。戦後のドイツ語圏では、元城だけではなく、お屋敷をホテルに転用し、屋号に「シュロス Schloss」を含むものが増えていった。というのもドイツ語の Schloss は、必ずしも城や城郭だけを指すとは限らず、ときには大豪邸・邸宅 (英語の palace、フランス語の hôtel、イタリア語の palazzo に相当する) のことを意味する場合もあるからである。例えば、ケルン近郊ベンスベルク Bensberg にある18世紀のプファルツ選帝侯の狩猟の館を改築した「グランドホテル・シュロス・ベンスベルク Grandhotel Schloss Bensberg」、ベルリンの Grunewald 地区にある富裕層の屋敷を転用した「シュロスホテル Schlosshotel」、タウヌス Taunus の「シュロスホテル・クロンベルク Schlosshotel Kronberg」、ザルツブルク Salzburg の14世紀の古城を改築した「ホテル・シュロス・メンヒシュタイン Hotel Schloss Mönchstein」といった具合である。

戦前のイタリアでは、修道院や貴族の屋敷といった歴史的建造物をホテルに転用することが慣例となっていたが<sup>107</sup>、中世の城塞をホテルに改築することはあまり普及しなかった。イタリア語の城「カステッロ Castello」を含むホテル名では、シチリア島のリゾート地タオルミーナ Taormina のカステッロ・ア・マーレ Castello a mare 地区に、その地名カステッロに因んで、城の形をモチーフにした大型高級ホテルの「グランド・ホテル・カステッロ・ア・マーレ Grand Hotel Castello a mare」があった程度である。

戦前のベルエポック期のスイスのホテルで名に「城 (フランス語圏ではシャトー、ドイツ語圏ではシュロス)」を含むホテルには、以下のものがある。レマン湖畔のリゾート地ヴヴェ Vevey の茅葺の古民家をホテルに転用した「ル・シャトー Le Château (Hôtel Pension)」(1855年、現・ヴヴェ歴史博物館)<sup>108</sup>、お城風の建築様式「シャトーエスク Châteauesque」でデザインされたシエール Sierre の「オテル・シャトー・ベルヴュ Hôtel Château Bellevue」(1873年、現・シエー

104 <https://www.thecastlesofscotland.co.uk/the-best-castles/other-articles/taymouth-castle/> (2024年4月4日閲覧)

105 <https://historicengland.org.uk/listing/the-list/results/?search=Castle+Hotel&searchType=NHLE+Simple> (2024年4月4日閲覧)

106 Wölki, Hanna, *Heidelberger Hotels im späten 19. Jahrhundert - Schloss-Hotel und Hotel Bellevue*, Verl. Regionalkultur, Ubstadt-Weiher, 2012

107 河村英和『イタリア旅行―「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011年

108 河村英和『観光大国スイスの誕生―「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013年、p. 93.

ル市役所)<sup>109</sup>、ローザンヌ・ウシーの古城の跡地にシャトーエスク様式で建った「オテル・デュ・シャトー Hôtel du Château」(現・ホテル「Château d' Ouchy」)(1893年<sup>110</sup>)、ルツェルン Luzern の「シュロスホテル・シャトー・ギュツチュ Schlosshotel Château Gütsch」(1888年<sup>111</sup>)、山岳リゾート町ポントレジーナ Pontresina の「シュロスホテル・エンダリン Schloss Hotel Enderlin」(1908年)である。

北米にはヨーロッパのような歴史的な古城はないが、ベルエポック期のカナダには、新築でフランスの古城からインスパイアされた、「シャトーエスク様式建築」の大型高級ホテルが数多くできた<sup>112</sup>。そのなかで屋号に「シャトー」を含むホテルには、カナディアン太平洋鉄道 Canadian Pacific Railway が出資して建ったケベック Quebec の「シャトー・フロントナック Château Frontenac」(1893年)<sup>113</sup>、グランド・トランク鉄道 Grand Trunk Railway によるオタワ Ottawa 駅前に建った「シャトー・ロリエ Château Laurier」(1912年)、アルバータ Alberta の「シャトー・レイク・ルイーズ Château Lake Louise」がある。他にもカナダの鉄道会社によって建設された、似たようなシャトーエスク様式建築のホテルは他にも幾つかあるが、ホテル名に「シャトー」を含んでいるとは限らない。

スペインでは1928年から、古城や修道院を中心とする歴史的建造物をホテルに転用する国営ホテル群「パラドールレス Paradores」の営業がはじまったが、元「城」の物件であっても、「パラドール Parador」と所在地の地名を組み合わせた命名が主流であり、ホテル名にスペイン語の城「カステーヨ Castillo」を使うことは稀だった。

フランスでは、1954年に、元城<sup>シャトー</sup>も対象とする良質な田舎の宿(オーベルジュ)を集めるホテル協会「ルレ・ド・シャンパーニュ Relais de Campagne」が、国道7号線(パリ=ニース間)沿いの8件の加盟から始まった。これは、1972年に「ルレ・エ・シャトー Relais&Château」と現在知られる組織名に改名され、美食レストランの存在をコンセプトに、歴史的建造物を使った小規模な高級ホテルを多く集めて発展してきた。その名の通り、「ルレ・エ・シャトー」の加盟店には、元城<sup>シャトー</sup>が戦後にホテルに転用され、ホテル名もそのまま所在地の地名を組み合わせ、「シャトー」と称するホテルが数多い。一方、フランスの戦前のホテルで、シャトーをホテル名に含む事例はあまりなく、カンヌにあったネオ・ゴシック様式の城風の豪邸をホテルに転用した「ホテル・シャトー・ド・ラ・トゥール Hotel Château de la Tour」(1875年)が挙げられる<sup>114</sup>。

109 上掲書、p. 200.

110 上掲書、p. 27.

111 上掲書、pp. 99-100.

112 Chisholm, Barbara, *Castles of the North: Canada's Grand Hotels*, Lynx Images, Toronto, 2001

113 ケベックには後年もう1軒、屋号にシャトーを含んだシャトーエスク様式建築のホテル「Hôtel-Château-Champlain」(1927年)もできた。<https://www.patrimoine-culturel.gouv.qc.ca/rpcq/detail.do?methode=consulter&id=110188&type=bien> (2023年4月4日閲覧)

図2 名古屋城を望む立地にある「ホテルナゴヤキャッスル」の絵葉書、1970年代



日本の城郭には緑もお堀もあり美的な自然環境に恵まれているため、日本において「キャッスル」を含むホテル名は、「パーク」を含む場合と近い感性にあるのだろう。なお日本語で「城山（しろやま）」という名を使ったホテルはあまりなく、城山観光ホテル（現・城山ホテル鹿児島）（1961年<sup>115</sup>）や、博多城山ホテル（1970年<sup>116</sup>）ぐらいで、英語の「キャッスル」を使ってホテル名にするほうが圧倒的に多かった。先に述べたように、たいていは規模が大きく、城を望む眺望自慢の高級路線のホテルであることが多いが、ときには小さなビジネスホテルでもありえた。例えば、金沢の「キャッスル・イン・金沢」（1982年<sup>117</sup>）は、宿屋「イン Inn」という語が入る名前からして、ビジネスホテルであることが分かる。つまり「キャッスル」を含むホテル名は、城のある町、すなわち城下町に所在しているだけの意味しか持たないことも少なくない。

以下は、開業年順に屋号に「キャッスル」を含む日本のホテルを列挙する。

熊本ホテルキャッスル（1960年<sup>118</sup>）、大阪キャッスルホテル（1967年<sup>119</sup>）、ホテルナゴヤキャッスル（1969年<sup>120</sup>）（図2）、秋田キャッスルホテル（1970年<sup>121</sup>）、沖縄グランドキャッスルホテル（1973年<sup>122</sup>）、弘前キャッスルホテル（1974年<sup>123</sup>）、ホテルキャッスル福山（1974年<sup>124</sup>）、小倉キャッ

114 <https://hotelchateaudelatour.com/en/home/>（2024年4月4日閲覧）

115 ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1972年版』オータパブリケーションズ、1971年、p. 383.

116 上掲書、p. 352.

117 『日本ホテル年鑑1985年版〈東日本編〉』、p. 835.

118 ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1973年版』オータパブリケーションズ、1972年、p. 447.

119 上掲書、p. 338.

120 「ホテルナゴヤキャッスル〔設計・竹中工務店〕」『近代建築』1969年12月号、pp. 109-114; 『日本ホテル年鑑1973年版』、p. 306.

121 Akita Castle Hotel「会社情報」、<https://www.castle-hotel.jp/company/>（2023年4月4日閲覧）



## 「パーク」や「キャッスル」が付くホテル名の日欧比較

スルホテル (1974年<sup>125</sup>)、姫路キャッスルホテル (1976年<sup>126</sup>)、(青森県弘前市の) ホテルニューキャッスル (1978年<sup>127</sup>)、ホテル霧島キャッスル (1979年<sup>128</sup>)、明石キャッスルホテル (1980年<sup>129</sup>)、ホテルキャッスル山形 (1981年<sup>130</sup>)、能代<sup>のしろ</sup>キャッスルホテル (1981年<sup>131</sup>)、ホテル豊田キャッスル (1981年<sup>132</sup>)、(名古屋市の) ホテルキャッスルプラザ (1981年<sup>133</sup>)、静岡キャッスルホテル佐乃春 (1981年<sup>134</sup>)、岡山キャッスルホテル (1982年<sup>135</sup>)、ホテル沼津キャッスル (1983年<sup>136</sup>)、富山キャッスルホテル (1984年<sup>137</sup>)、福山ニューキャッスルホテル (旧・福山キャッスルホテル新館<sup>138</sup>) (1984

- 
- 122 朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 264. 沖縄の建築家、金城信吉 (1934-1984) による設計。門一級建築士事務所「門を作った人と作品」、<https://www.jolq.com/company/sakuhin.html> (2023年4月4日閲覧) 1997年までに「ホテル日航那覇グランドキャッスル」と改名されたが、2016年に米外資系ホテルのヒルトンの傘下となり、「Doubletree by Hilton 那覇首里城」という名でリブランドされた。琉球新報 Digital 『『グラキャン』43年の歴史に幕 ヒルトン首里城が開業』2016年7月2日配信、<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-309251.html> (2023年4月5日閲覧)
- 123 「弘前キャッスルホテル」『月刊ホテル旅館』1974年7月号、pp. 27-31。「弘前キャッスルホテル」は1978年に経営破綻し、弘南バスによって「ホテルニューキャッスル」として継承されていたが、2023年に廃業した。東奥日報社「ホテルニューキャッスル破産/弘前」2023年4月3日配信、<https://www.toonippo.co.jp/articles/-/1529600> (2023年4月4日閲覧)
- 124 「ホテルキャッスル福山」『月刊ホテル旅館』1975年1月号、pp. 34-37. 株式会社バッセル「歴史年表」、<https://vessel-group.co.jp/history/history-table/> (2023年4月4日閲覧)
- 125 朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 246.
- 126 「スミトール・ハウジング、姫路にビジネスホテル—地元と『姫路キャッスルホテル』設立」『日経産業新聞』1976年4月17日、p. 8.
- 127 TBS・JNN NEWS DIG 「弘前市の老舗ホテル「ホテルニューキャッスル」が45年の歴史に幕」2023年4月10日配信、<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/425261?display=1> (2024年3月30日閲覧)
- 128 「鹿児島にリゾートホテル『ホテル霧島キャッスル』が誕生、26日にオープン披露。」『日本経済新聞』九州版、1979年4月20日、p. 13.
- 129 『日本ホテル年鑑 1985年版〈西日本編〉』、p. 1321.
- 130 2023年末に閉業した。「山形のホテルキャッスル 今年末で閉館、再開未定」『日本経済新聞』東北版、2023年1月17日、p. 2.
- 131 2020年に閉業した。佐藤仁彦「(秋田) キャッスルホテル能代、8月末閉館へ」『朝日新聞デジタル』2020年6月3日配信、<https://www.asahi.com/articles/ASN626SY3N62ULUC01R.html> (2024年3月30日閲覧)
- 132 「ホテル豊田キャッスル、15日開業—85社の共同出資、ナゴヤキャッスルが運営。」『日経産業新聞』1981年4月14日、p. 11; 「新入会ホテル紹介: ホテル豊田キャッスル」『Hotel review = ホテルレビュー』1983年5月号、p. 21.
- 133 「新入会ホテル紹介: ホテルキャッスルプラザ」『Hotel review = ホテルレビュー』1983年5月号、p. 20.
- 134 goo 住宅・不動産 (NTT Docomo) 「静岡キャッスルホテル佐乃春 新静岡駅 貸店舗 (建物一部) 物件 詳細」<https://house.goo.ne.jp/rent/bb/detail/0/22101/6980908358/40410505/x06980908358.html> (2024年3月30日閲覧)
- 135 『日本ホテル年鑑 1985年版〈西日本編〉』、p. 1356.
- 136 コロナ禍の影響によって、2020年に閉業し、現在は東都大学のキャンパスに使用されている。「閉館ホテル、キャンパスに、沼津、東都大、来春開校目指す。」『日本経済新聞』静岡版、2020年5月23日、p. 6.

年)、釧路キャッスルホテル(1987年<sup>139)</sup>、小諸グランドキャッスルホテル(1988年<sup>140)</sup>、岐阜キャッスルホテル(1990年<sup>141)</sup>、(新潟県上越市高田の)タカダキャッスルホテル(1994年<sup>142)</sup>、彦根キャッスルホテル(1997年<sup>143)</sup>である。ただし「釧路キャッスルホテル」については例外的に、建物が城のような形状をしていることに因んだ命名で、建築家、毛綱毅曠<sup>もづな きこう</sup>(1941-2001)による、フレンチ・シャトー様式をモチーフにしたバブル時代らしいポストモダン建築である<sup>144</sup>。また、1970年代には、フランス語の「シャトー」と「オテル」を混合した名前のホテル「シャトーテル」が複数開業した。例えば、(新潟の)シャトーテル一本杉・シャトー塩沢吉里ロッジ(1971年<sup>145)</sup>、(大阪の)シャトーテル大手前(1974年<sup>146)</sup>、シャトーテル松山(1972年<sup>147)</sup>、(南熱海の)シャトーテル赤根崎(1975年<sup>148)</sup>である<sup>149</sup>。

(つづく)

### 【謝辞】

本研究は、2021年度跡見学園女子大学特別研究助成費を受けて実施された研究成果の一部である。ここに記して心より謝意を表します。

---

137 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 807.

138 「渋谷福通会長の夢実現、福山キャッスルホテル新館完成。」『日経産業新聞』1984年6月26日、p. 19.

139 「釧路キャッスルホテル」は2014年に経営破綻し、札幌の「センチュリーロイヤルホテル」(札幌国際観光)の傘下となり、「釧路センチュリーキャッスルホテル」と改名された。「釧路キャッスルホテル、民事再生法適用を申請。」『日本経済新聞』北海道版、2014年11月5日、p. 1.

140 「小諸グランドキャッスルホテル、工事完了、22日開業—観光センター設置。」『日本経済新聞』長野版、1988年4月20日、p. 3.

141 2002年に閉業した。「岐阜キャッスル、自己破産を申請。」『日本経済新聞』中部版、2002年7月23日、p. 7.

142 1948年創業の「吉田旅館」に遡り、1994年に新築移転したさいに、高田城のある町に因んで「キャッスル」を含む屋号で命名された。建物は当時流行していたポストモダンな意匠であったが、コロナ禍の影響によって2020年に閉業した。東京商工リサーチ「新潟ホテル経営：(有)タカダキャッスルホテル」2020年4月27日配信、[http://www.tsr-net.co.jp/news/tsr/20200427\\_01.html](http://www.tsr-net.co.jp/news/tsr/20200427_01.html) (2023年4月4日閲覧)

143 2014年に「彦根キャッスルリゾート & スパ」として改築・改名した。<https://www.hch.jp/news/detail.php?id=779> (2024年3月30日閲覧)

144 毛綱毅曠建築事務所「作品21題 釧路キャッスルホテル」『新建築』1988年5月号、pp. 176-178.

145 『日本ホテル年鑑 1985年版〈東日本編〉』、p. 797.

146 『日本ホテル年鑑 1985年版〈西日本編〉』、p. 1240.

147 上掲書、p. 1474.

148 朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 183.

149 黒川建設による「シャトーテルグループ」傘下のホテルで、他にも「シャトーテル山中湖」があり、海外では1軒、「シャトーテル香港」もあった。朝日新聞社編、前掲書、1977年、p. 61.

## 参考文献

### (和文)

- 朝日新聞社編『日本の宿 -Where to lay your head in Japan』朝日新聞社、1977年
- 小川功「日本三景・松島の観光振興と旅館経営者—大宮司雅之輔による観光鉄道への関与を中心として」  
『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第9号、2010年、pp. 1-24
- 『会社年鑑 1976年版』日本経済新聞社、1976年
- 河村英和『イタリア旅行—「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011年
- 河村英和『観光大国スイスの誕生—「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013年
- 河村英和「昭和30年代のホテル建築の特徴について」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第33号、2022年、pp. 25-57
- 河村英和「『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(1)」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年、pp. 146-157
- 『観光地と洋式ホテル』鐵道省、1934年
- 澤護『横浜外国人居留地ホテル史(敬愛大学学術叢書3)』白桃書房、2001年
- 砂本文彦『近代日本の国際リゾート：一九三〇年代の国際観光ホテルを中心に』青弓社、2008年
- 田中正「旅館再生の可能性-改修により、規模・施設イメージを一新し、名称・サービスも変えて再生した成功事例から」『宮城大学事業構想学部紀要7』2004年
- 富田昭次『ホテルの社会史』青弓社、2006年
- 内閣官報局編『法令全書1』原書房、1968年
- 『日本ホテル年鑑1978年版』オータパブリケーションズ、1978年
- 『日本ホテル年鑑1985年版(東日本編)』オータパブリケーションズ、1985年
- 『日本ホテル年鑑1985年版(西日本編)』オータパブリケーションズ、1985年
- 『北海道年鑑1973年版』北海道新聞社、1972年
- ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1972年版』オータパブリケーションズ、1971年
- ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1973年版』オータパブリケーションズ、1972年
- 『山口誓子全集第10巻(紀行集・年譜)』明治書院、1977年
- 『吉田五十八建築作品集第1(一般篇上)』目黒書店、1949年

### (欧文)

- Béha, Alexander, *Lugano and Its Environs: Special Guide*, Alexander Béha, Lugano, 1866
- Casanova, Giacomo, *La mia vita, a cura di Giovanni Comisso*, vol. 3, Longanesi, Milano, 1958
- Casanova, Giacomo, *The Memoirs of Giacomo Casanova di Seingalt*, 7th vol., The Casanova Society, London, 1922
- Chisholm, Barbara, *Castles of the North: Canada's Grand Hotels*, Lynx Images, Toronto, 2001

- Düsseldorf und seine Bauten*, Architekten-und Ingenieur-Verein, Düsseldorf, Selbstverlag des Vereins, 1904
- O'Connor Davis, Susan, *Chicago's Historic Hyde Park*, The University of Chicago Press, Chicago, 2013
- Pasqualigo, Giuseppe, *Manuale ad uso del forastiere in Lugano, ovvero, Guida storico-artistica della città e dei dintorni*, Giuseppe Fioratti, Lugano, 1855
- Swales, Will, *Conwy Castle Hotel. A Brief History*, The Coaching Inn Group Ltd., Boston, 2017
- The Park Hotel Traveler's Guide for 1872. Containing a Brief History of the City of Madison*, Atwood & Culver, Madison, 1872
- Vaas, A. J., *Hyde Park Hotel: Gallop*, in *Peters' Select Series of Gallops and Trois Temps*, J. L. Peters, New York, 1860
- Winckler, Axel, *Führer durch das königl. bayer. Stahl- und Moor-Bad Steben*, Friedrich Thelemann, Hof, 1895
- Wölki, Hanna, *Heidelberger Hotels im späten 19. Jahrhundert - Schloss-Hotel und Hotel Bellevue*, Verl. Regionalkultur, Ubstadt-Weiher, 2012

〈新聞・雑誌記事〉(時系列順)

- 堀田英二建築設計事務所「大洗パークホテル」『建築文化』1961年10月号、pp. 95-100
- 「記録6：ホテル三愛」『SD：Space Design』1965年1月号、p. 126
- 「近代建築で急速に成長した“雲仙”の雲仙パークホテル」『月刊ホテル旅館』1968年5月号、pp. 90-94
- 「ホテルナゴヤキャッスル〔設計・竹中工務店〕」『近代建築』1969年12月号、pp. 109-114
- 「洞爺パークホテル〈洞爺湖温泉〉」『月刊ホテル旅館』1970年9月号、pp. 41-43
- 「福山パークホテル〈福山〉」『月刊ホテル旅館』1972年9月号、pp. 38-40
- 「徳島パークホテル」『月刊ホテル旅館』1972年10月号、p. 14; pp. 28-31
- 「戸倉パークホテル〈上山田〉」『月刊ホテル旅館』1972年10月号、pp. 24-27
- 早川哲「松山パークホテル」『月刊ホテル旅館』1973年6月号、pp. 29-32
- 出水建築事務所「富山パークホテル」『近代建築』1973年11月号、pp. 109-112
- 「弘前キャッスルホテル」『月刊ホテル旅館』1974年7月号、pp. 27-31
- 「ホテルキャッスル福山」『月刊ホテル旅館』1975年1月号、pp. 34-37
- 「新宿パークホテル」『月刊ホテル旅館』1975年1月号、pp. 38-41
- 「スミトー・ハウジング、姫路にビジネスホテル—地元と『姫路キャッスルホテル』設立」『日経産業新聞』1976年4月17日、p. 8.
- 「アキタパークホテル新館」『月刊ホテル旅館』1976年9月号、p. 11; pp. 29-31
- 「定山溪パークホテル」『月刊ホテル旅館』1976年12月号、p. 14; pp. 28-32
- 「新入会ホテル紹介：鎌倉パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』1978年4月号、p. 15

「パーク」や「キャッスル」が付くホテル名の日欧比較

- 「鹿児島にリゾートホテル『ホテル霧島キャッスル』が誕生、26日にオープン披露。」『日本経済新聞』九州版、1979年4月20日、p. 13
- 編集部「全国奮戦ホテル旅館ルポー岡山パークホテル（岡山市）」『月刊ホテル旅館』1979年6月、p. 190
- 「二戸市内に初のホテルと大型SCーホテルは二戸パークホテル、中三がSCの核店舗。」『日本経済新聞』東北版、1979年6月8日、p. 2
- 「丸玉観光の京都パークホテル本館が完成、8日から営業開始。」『日経産業新聞』1980年7月8日、p. 11
- 平山恵一「人口約三万人ながら県北の行政中心都市で、将来性に期待ー二戸パークホテル（岩手県・二戸市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 28-32
- 平山恵一「基地関連の需要も多く、宿泊は安定：課題は宴会部門拡充ー三沢パークホテル（青森県・三沢市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 33-36
- 平山恵一「品質アップを目指した都市型ホテルのリノベーション研究事例 - 高知パークホテル（高知市）」『月刊ホテル旅館』1980年8月号、pp. 195-198
- 「ホテル豊田キャッスル、15日開業 -85社の共同出資、ナゴヤキャッスルが運営。」『日経産業新聞』1981年4月14日、p. 11
- 「新入会ホテル紹介：ホテル豊田キャッスル」『Hotel review = ホテルレビュー』1983年5月号、p. 21
- 「新入会ホテル紹介：ホテルキャッスルプラザ」『Hotel review = ホテルレビュー』1983年5月号、p. 20
- 「名古屋の都心・栄にオアシス誕生 - 名古屋不二パークホテル 9月10日オープン」『中部財界』1983年10月号、pp. 37-39
- 「渋谷福通会長の夢実現、福山キャッスルホテル新館完成。」『日経産業新聞』1984年6月26日、p. 19
- 「三菱地所、厚木のホテルの開業準備室開設。」『日経産業新聞』1985年9月12日、p. 14
- 「新潟駅周辺地区、ビジネスホテル2社、増設へー来年中に195室を計画。」『日本経済新聞』新潟版、1985年11月23日、p. 22
- 「三菱地所、厚木のホテル10月に開業。」『日経産業新聞』1986年4月14日、p. 15;
- 「新入会ホテル紹介：大洗パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』1986年5月号、p. 20
- 「新入会ホテル紹介：名古屋不二パークホテル」『Hotel review = ホテルレビュー』1986年5月号、p. 22
- 編集部「三菱地所『厚木ロイヤルパークホテル登場』で一気にパワーアップー神奈川・厚木」『月刊ホテル旅館』1986年6月号、pp. 88-89
- 「高野観光、ホテル撤退 - 旭川パークホテルを売却。」『日本経済新聞』北海道版、1987年7月29日、p. 1
- 「小諸グランドキャッスルホテル、工事完了、22日開業 - 観光センター設置。」『日本経済新聞』長野版、1988年4月20日、p. 3
- 毛網穀建築事務所「作品21題 釧路キャッスルホテル」『新建築』1988年5月号、pp. 176-178
- 「『ロイヤルパークホテル高松』、2月22日にオープン。」『日本経済新聞』四国版、1989年2月23日、p. 12
- 「ロイヤルパークホテル、来月1日に開業。」『日経産業新聞』1989年5月25日、p. 6
- 「函館市内中心部新川町の函館パークホテル、新都市型和風ホテルに新装オープン」『はこだて財界』1989年1月号（新春特別）、pp. 20-23

- 「事務所特集 大旗連合建築設計: 作品 ロイヤルパークホテル/三菱地所」『近代建築』1989年10月号、pp. 51-62
- 「新潟・黒川村 - 災害原点に観光開発次々 (地域おこし実践講座)」『日経流通新聞』1990年10月11日、p. 13
- 「会津若松の東山温泉、ホテルの増改築ラッシュ、高速道開通などで集客増期待。」『日経産業新聞』、1991年11月15日、p. 19
- 「ネスコ、ホテル跡地売却、大手ゼネコンに約160億円で一負債を大幅圧縮。」『日本経済新聞』千葉版、1993年6月1日、p. 39
- 「穴吹興産―地元密着でシェア向上 (ウオッチング四国の企業)」『日本経済新聞』四国版、1996年6月25日、p. 12
- 「京都パークホテル、モルガンに売却、来年1月で休止。」『日本経済新聞』京都・滋賀版、2004年12月14日、p. 45
- 「ハイアットリージェンシー京都、来年3月3日に開業。」『日本経済新聞』京都・滋賀版、2005年2月2日、p. 45
- 「東山パークホテル、破産手続き開始。」『日本経済新聞』東北版、2005年8月24日、p. 24
- 「厚木ロイヤルパーク、『ロワジール』にホテル名変更。」『日本経済新聞』神奈川版、2006年11月18日、p. 26
- 「釧路キャッスルホテル、民事再生法適用を申請。」『日本経済新聞』北海道版、2014年11月5日、p. 1
- 琉球新報 Digital 「『グラキャン』43年の歴史に幕 ヒルトン首里城が開業」2016年7月2日配信
- 「呉竹荘、奈良に進出、地元ホテルを買収」『日本経済新聞』静岡版、2019年4月12日、p. 6
- 「閉館ホテル、キャンパスに、沼津、東都大、来春開校目指す。」『日本経済新聞』静岡版、2020年5月23日、p. 6
- 佐藤仁彦「(秋田) キャッスルホテル能代、8月末閉館へ」『朝日新聞デジタル』2020年6月3日配信
- 「山形のホテルキャッスル 今年末で閉館、再開未定」『日本経済新聞』東北版、2023年1月17日、p. 2
- 「『鳩待峠に一番近い宿』尾瀬パークホテル(群馬・片品村)に破産手続き開始決定」『上毛新聞』2023年3月23日配信
- 東奥日報社「ホテルニューキャッスル破産/弘前」2023年4月3日配信
- TBS・JNN NEWS DIG「弘前市の老舗ホテル「ホテルニューキャッスル」が45年の歴史に幕」2023年4月10日配信